

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 8月 5日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170501795		
法人名	三愛商事株式会社		
事業所名	グループホーム 里の家 平岸		
所在地	札幌市豊平区平岸5条12丁目1-26 011-841-7046		
評価機関名	有限会社ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北一条ビル3階		
訪問調査日	平成19年7月27日	評価確定日	平成19年8月17日

## 【情報提供票より】（19年6月1日事業所記入）

### （1）組織概要

開設年月日	平成 14 年12 月7 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	22 人	常勤 22人, 非常勤 0人, 常勤換算6.77人	

### （2）建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	3階建ての1～3階部分	

### （3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	48,000 円
敷金	有 ( 円)	無○	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり		800 円

### （4）利用者の概要（7月 27日現在）

利用者人数	26 名	男性 3 名	女性 23 名
要介護1	4	要介護2	10
要介護3	10	要介護4	2
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 86.5 歳	最低 68 歳	最高 100 歳

### （5）協力医療機関

協力医療機関名	クリニックあい エスポアール北広島
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

札幌市内と近郊に4箇所グループホームを運営し、統一した理念で利用者本位のケアに取り組んでいる。介護度の高い利用者や車椅子利用者を含めて、機能低下の防止策として外出の機会を多く取り入れ、楽しい行事を計画し実施している。「ホーム便り」は本社で作成して家族に送っているが、利用者の写真を掲載し、日常の様子が良くわかり家族のホームへの理解と信頼に役立っている。運営推進会議を隔月に開催し、地域との関わりの推進となっている。本社主催の研修が毎月定期的で開催され、職員は各ユニット1名の参加であるが、充実した取り組みとなっておりケアの質の向上につながっている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） 浴室に手すりの設置が望まれると前回の指摘事項については、利用者の状況に応じた取り組みをしている。まさに個別ケアとして事故のない安全策を整えている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 全職員が自己評価項目について検討し、ユニットリーダーが記載した。職員の意識は更なる取り組みを展開するとの理解から、全ての項目に○を記載している。事業所としては既に目的達成していると思われる箇所も多々あるので、取り組む課題の整理ができるように今後の検討を期待する。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 過去に開催した運営推進会議において参加者からの意見や要望などは本社並びに事業所で検討して可能な限り取り組める体制になっている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 毎月「里の家だより」を発行しホームの日常の様子や行事の報告などこまめに家族に知らせている。玄関の「意見箱」に投稿の事実はないが家族が来所したとき、話されたことを記録にとどめて運営に反映するように取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 毎月「里の家だより」を発行しホームの日常の様子や行事の報告などこまめに家族に知らせている。玄関の「意見箱」に投稿の事実はないが家族が来所したとき、話されたことを記録にとどめて運営に反映するように取り組んでいる。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の案内パンフレットは勿論、運営規定などに明確に記載され、地域の中で暮らしを継続することを理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングで復唱し、職員はその日のケア目標をたて実践に向けての取り組み、ケア会議で話し合い、利用者本意を目指して取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、活動に参加している。緑化運動や町内清掃及び祭りの休憩場所として事業所を開放し、地元の人々と交流している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員が項目ごとに吟味し、課題の把握に努めてケアの質の向上を目指して取り組んでいる。		

札幌市 グループホーム里の家平岸

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回開催し、参加者から意見や要望があったときは本社並びに事業所で検討して可能な限り取り組めるような体制になっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者は、市の管理者会議や区の連絡会に参加し、単に事務的連絡のみならず、ケアの向上に向けて意見交換に努めている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の生活が見える形で写真が豊富に掲載された「里の家だより」を毎月発行して家族に届けている。内容が分かりやすく、利用者個人向けの記載欄もあり、日々の食事が写真入で紹介されて利用者の笑顔が多く見られる。また、面会の時は詳しい報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「意見箱」を設置しているが、投稿はない。家族が事業所に来たとき、職員との会話で要望などがあったときは、「家族対応記録簿」に記入して運営に反映するように取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は比較的少なく利用者への影響は殆ど見られない。毎朝のミーティングは事業所全体で実施しているので、職員と利用者はユニットを越えた関わりがあり、利用者へのダメージは見られない。また、新しい職員は馴染みの関係が作れるように採用前から見学するなど配慮をしている。		

札幌市 グループホーム里の家平岸

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任研修は実施しているが、本社が企画して毎月1回同系列の事業所の職員が各ユニットから1名交代で参加し、テーマに沿った研修を継続して実施している。参加者は、報告書を作成し、ケアの質の向上に役立てている。また外部の研修にも参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社は4箇所グループホームを運営しているので、研修をはじめ合同の利用者対象の行事の実施、職員の交流など、相互訪問などの取り組みを日常的に行なっている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学は家族のみではなく、利用者中心に安心して過ごせる住まいとなるように納得の行くまで、何度も話し合いを重ねて体験をしてから、サービスを開始している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の言葉や動作に傾聴し、食事作りや家事をともにすることで、家族のように支えあう関係を築いている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員との関わりのみでなく、利用者同士の会話やしぐさの中に暮らし方の希望などの把握に努めている。献立の希望など十分汲み取るようにしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は本人、家族、ケースワーカーなど、必要な関係者と意見を取り入れ、本人がより良く暮らせるようにチームで作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直し期間は3ヵ月とし、本人、家族と話し合っている。家族と話し合えない場合は郵送で了解のいただけるような仕組みになっている。期間前にも状態が変化したときは随時見直しをしている。入院して退院したときなどは見直しをしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	元管理者が整骨院を経営しているので、リハビリを兼ねた通院は日常的に支援している。医療機関の送迎など本人や家族の希望を聞いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に掛り付け医師の往診は継続している。事業所全体で週1回であるが、利用者の健康面から頻繁に往診をいただいている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	できるだけ事業所で看取られたいとの希望を持っている利用者や家族もいるが、個別に相談して対応できる体制を模索している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護度の違いや能力の違いなど、一人ひとりの個性を認めてプライバシーに配慮をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを一人ひとり把握し、ゆったりと過ごしている。又、希望により可能な限り外出など支援している。		

札幌市 グループホーム里の家平岸

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望や季節感のあるもの、さらにほかの事業所と競い合って献立に工夫がみられる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を決めているが、あくまでも目安として利用者の希望に添って入浴が楽しめるように取り組んでいる。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	居間の飾り付け用作品の作成や、居室の掃除や食器の片付けなどに利用者は協力して行なっている。室内にばかりいないでホーム近辺の散歩や買物など外出の機会を多くしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近郊の同系列事業所との交流や整骨院への通院など日常的に外出の行事の頻度を多くして取り組んでいる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	近隣の交通事情及び利用者の安全第一に玄関の日中の施錠はやむ得ず、家族の理解を得ている。	○	ユニットの入口に電子錠を設置しているが、各ユニットの入口は施錠しない方向への取り組みを期待する。

札幌市 グループホーム里の家平岸

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回避難訓練を実施して、記録も整理されている。日頃から地域の人々の協力が得られる体制を目指している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は職員が利用者の意見も聞いて作成している。栄養バランスや水分量など栄養士の点検をしている。本社では毎食の提供する食事を各ユニットから写真で報告を集め紙上コンクールを開催し、職員の励みにつながっている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の共有の場所はゆったりとした造りで広々して多目的に利用できる。ユニット入口付近で鉢植えを楽しんでいる利用者もいる。利用者の作品を掲示したり、行事の写真を貼ったり明るい雰囲気の仕事所である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各自の居室は馴染みのタンスなど生活に必要な品を配置し、落ち着いた居心地良い居室となっている。乾湿計など設置し、快適な居場所となっている		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。